



12 鬼穴

昔はずいぶん深かったという。大正2年(1913年)に魚藍観音(魚籠を持つ)が祀られた。



18 妙智寺

永禄2年(1559年)創立、山院号を普門山慈照院という。宗派は曹洞宗、本尊は釈迦如来、開山は僧源巨である。天正2年(1574年)には、古仏聖観音が越後三十三番観音第四番札所に定められた。



24 猩々洞 (県指定文化財)

佐渡弥彦米山国定公園の中の福浦八景の1つである。奥行83mの海蝕洞で、約50m入ったところから広くなり、幅約35m高さ12m程のドーム状になっている。4種類のコウモリが混棲しており、県の天然記念物に指定され、洞内への立ち入りはできない。



30 十王堂

妙智寺の末寺で、明和元年(1764年)創立の尼寺であったが、戦後しばらくして無住となり従来の堂を取壊し、跡地に小堂が建てられた。



13 ナウマン象の発掘の地

昭和39年、ナウマン象の化石が発見された場所で、はっきりとした地層が見られる。二頭の臼歯の咬板六個と切歯二個など多数の骨片が出土した。この場所は津波避難場所に指定されている。



19 龍泉寺

かつては、高野山龍光院の末院であった。山院号は金峯山光明院という。今は奈良県の長谷寺を総本山とする。真言宗豊山派で、本尊は虚空蔵菩薩である。境内には戊辰戦争戦死者加賀藩夫卒の墓があり、三ツ石井戸に在った不動明王と弘法大師像が不動堂に移されている。



25 北国街道米山三里旧道道標 (市指定文化財)

ここは頭城と刈羽の郡境で桑名、高田両藩の境界でもあった。法師像を刻んだ石塔の道標があり、左側に「右八かみがた道」と刻まれている。



31 清水

真夏でも潤れることのないこの湧き水は清水と呼ばれ、野菜洗いなどに利用されている。以前は主婦の社交の場としてにぎわった。地区以外からコーヒーを沸かす水として汲みに来る人もいるという。二体の不動明王と石灯籠とが祀られている。



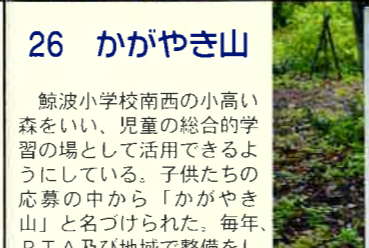
14 小学校の跡地

コミセンと鯨波町内会館の場所にかつては小学校と村役場があり、昭和15年柏崎町に併合されるまで旧鯨波村の中心地であった。コミセン裏には「鯨波小学校之跡、旧鯨波村解村50周年」の記念碑が建っている。



20 十王仏 延命地蔵と

妙智寺前道路を挟んで延命地蔵を中心に六地藏がたち、その足元に二組の十王仏とその眷属が並んでいる。一組の十王仏にはそれぞれ初七日から三年までの忌日と忌日を受け持つ十王名が刻まれている。延命地蔵は「目地蔵」とも呼ばれている。



26 かがやき山

鯨波小学校南西の小高い森をいい、児童の総合的学習の場として活用できるようにしている。子供たちの応募の中から「かがやき山」と名づけられた。毎年、PTA及び地域で整備をしている。

北かがやき山 昆虫の森



32 十二社 (十二神社)

建久3年(1192年)に川内地区の産土神として創立されたといわれ、祭神は久々廻地命・猿田彦命・稲背経命である。白川風土記では句々廻経命とも伝えられる。



15 すずみ橋

複線化・駅舎南側移転時まで、前川西側の旧踏み切り～すずみ橋は線路北側にあった駅舎への交通路として重要であった。



21 神明宮

仁賢天皇の時代(5世紀末ごろ)の創立と伝えられている。祭神は天照皇大神・豊受大神、健甕名方命(宇上町にあった上諏訪社の祭神)、奥津御井命・辺津御井命(宇浦町にあった下諏訪社の祭神)である。



27 川内旧道

昭和9年、現在の県道鯨波宮川線にあたる新道が開通するまでは、この狭くて急傾斜の続く山道が、川内と鯨波を結ぶ幹線道路であった。旧道沿いに多くの庚申塔や米山塔、地藏菩薩などがある。



33 川内ダム

川内ダムは昭和12年に完成したアースダムで、柏崎の上水道発祥の地である。緑化整備された森林と緑を映し輝く湖面上を飛ぶカワセミの姿は美しく、静かな美に癒される。広場にダム建設を推進した西巻進四郎の銅像がダムを見守るように建っている。



16 中部北陸自然歩道

新潟県には中部北陸自然歩道が43ルートあり、「米山海岸潮の音のみち」は鯨波駅を基点とし、米山駅までの11kmである。



22 鯨波集落発祥の地

新旧国道の合するこの付近を滝ノ沢と称し、鯨波集落発祥の地といわれている。ここよろんごは市観光MAPにも紹介されている。



28 川内遺跡

この地で縄文中期(約4500年前)の土器や石器が発見され、炉跡も発掘された。また、出土品の中には弥生期のもと思われるものも含まれており、かなり長い間にわたり、人が住んで居ることがわかる。



34 白雲滝 (男滝)

落差約5m幅約1mのV字の滝で、明治22年(1889年)に柘堀七三郎が発見した。滝のそばには、柘堀七三郎の碑があり、「面影は滝こそ誰を呼子鳥」の句などが刻まれている。女滝は川内ダムの完成により水没した。



17 鯨波横断地下道

73mの地下道は、鯨波コミセンわきの市道13-1号線と、県道鯨波宮川線をつなぐ。昭和61年に建設され、南側の出入口は鯨の形で噴水が潮吹きするなどユニークな地下道。「鯨の地下道」と呼ばれ親しまれ、中には小学生の絵が飾ってある。



23 説法一万座山参詣道碑

龍泉寺の月海師の説法一万座記念として建てられた供養塔に「右の砂はら道は、京江戸往来。左の坂は米山薬師さんけい道」と刻まれている。もと波打ち際にあったものが、米山登山道分かれ目に移されたという。



29 長昌寺

妙智寺の末寺で、天正元年(1573年)創立、開山は長益和尚という(白川風土記)。寛永元年創立、開山は僧侶岳唯明とも伝えられる(寺社明細)。山院号を白雲山大慈院という。宗派は曹洞宗、本尊は十一面観世音菩薩である。境内には佐藤孫左衛門辞世の句を刻んだ石碑がある。



35 六地藏 (東の輪六地藏)

墓地の入り口などに六体並んでいるお地藏様を六地藏という。六体の地藏が地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天の六つの世界(六道)にいて、それぞれの世界で苦しんでいるものたちを救ってくれるといわれている。東の輪薬師寺堂入口、妙智寺門前、龍泉寺の本堂前などにある。



鯨波地区ガイドマップ



鯨波地区コミュニティ振興協議会
〒945-0855 柏崎市鯨波2丁目4番50号
TEL & FAX 0257-24-7174



1 塔の輪心礎石 (市指定文化財)

この大石は塔の輪にあったという法修山妙行寺の三重の塔の心柱の礎石で鎌倉時代前期（1200年頃）のものと推定されている。この礎石の穴の大きさより18mほどの三重の塔であったと考えられるという。



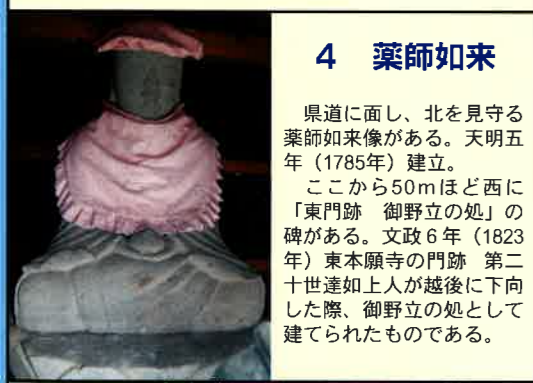
2 岫ノ木

柏崎地域の海岸線には、樹形が風の影響を受けて幹が横に伸びた、風雪に耐えている姿をした樹が多く見られる。高田藩主が防風林として植えさせたという説もあり、一里塚・屋敷木に利用された。正式な和名は「エノキ」(榎)で、国蝶オオムラサキの幼虫が葉を食べる。



3 薬師堂

妙智寺の末寺で享和元年（1801年）創立、宗派は曹洞宗、本尊は薬師如来、開山は僧大英である。戊辰戦争の戦死者桑名藩士の墓がある。また、薬師堂脇には六地藏とともに地藏菩薩像、妙高山塔、供養塔などが並んでいる。



4 薬師如来

県道に面し、北を見守る薬師如来像がある。天明五年（1785年）建立。ここから50mほど西に「東門跡 御野立の処」の碑がある。文政6年（1823年）東本願寺の門跡 第二十世達如上人が越後に下向した際、御野立の処として建てられたものである。



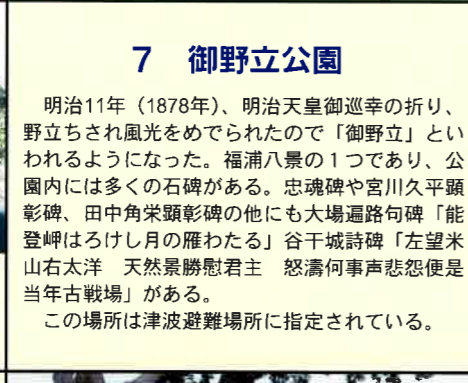
5 稲荷社

明治43年（1910年）、毎夜狐が鳴くというので稲荷神を祀った。社日は2月初午。大正11年（1922年）に現在の地に社が建てられた。



6 「板碑」(石塔婆)及び「一字石経」の出土地

板碑は中山石製で大きさは20~50cmのものが昭和16年に掘り出された。また、昭和25年、一字一石経（小石に経文の一字を書いたもの）が多数見つかった。板碑は現在博物館に5基展示されている。



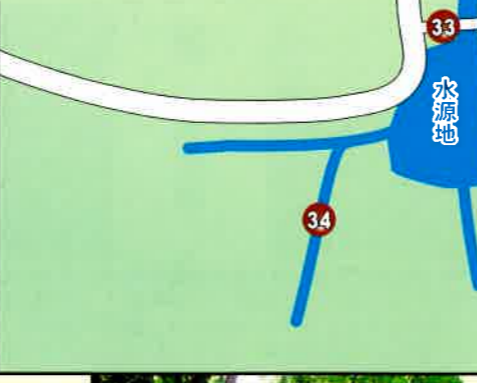
7 御野立公園

明治11年（1878年）、明治天皇御巡幸の折り、野立ちされ風光をめでられたので「御野立」といわれるようになった。福浦八景の1つであり、公園内には多くの石碑がある。忠魂碑や宮川久平顕彰碑、田中角栄顕彰碑の他にも大場廻路句碑「能登岬はるけし月の雁わたる」谷干城詩碑「左望米山右太洋 天然景勝慰君主 怒濤何事悲怨便是当年古戰場」がある。この場所は津波避難場所に指定されている。



8 明治天皇御巡幸記念碑（駐蹕之碑）

明治11年（1878年）、明治天皇が北陸ご巡幸の折り、この丘陵地に御野立ちされ風光を賞賛されたのを記念して翌年鯨波村民が碑を建てた。題字、撰文と書は御巡幸の時お供をした宮内省の人たちである。碑文には 明治十一年 天皇北巡観風省 俗親訪民癸九月十三日到越後刈羽郡鯨波郵駐蹕山上以覽海山之勝明年二月郵民相謀建石以記盛事垂之後昆嗚呼非 聖德詎能如此臣在屬從班因其請而記之 とある。



9 法華塔

天明元年（1781年）、日蓮上人五百回忌に本妙寺の住職が発起人となって建てたもので「南無妙法蓮華経」と彫られている。この辺りは慶応4年（1868年）戊辰鯨波戦争の激戦地であった。



10 地替ヶ淵

断崖の下はとても深い淵であるが、61年に1度砂で埋まるという言い伝えがある（60年ともいわれる）。昭和41年2月に2日間だけ砂で埋まった。



11 嫁入坂

字「嫁入坂」は御野立公園入口から郵便局裏・旧踏切付近に続く。足利時代に、国府上杉家から上条上杉家に輿入れがあった際に切り開いた道が「嫁入坂」と言い伝えられている。急傾斜地崩落防止対策で、その名残をたどることは難しい。